

第1章 氷見市水道ビジョンの策定趣旨と位置付け



氷見漁港

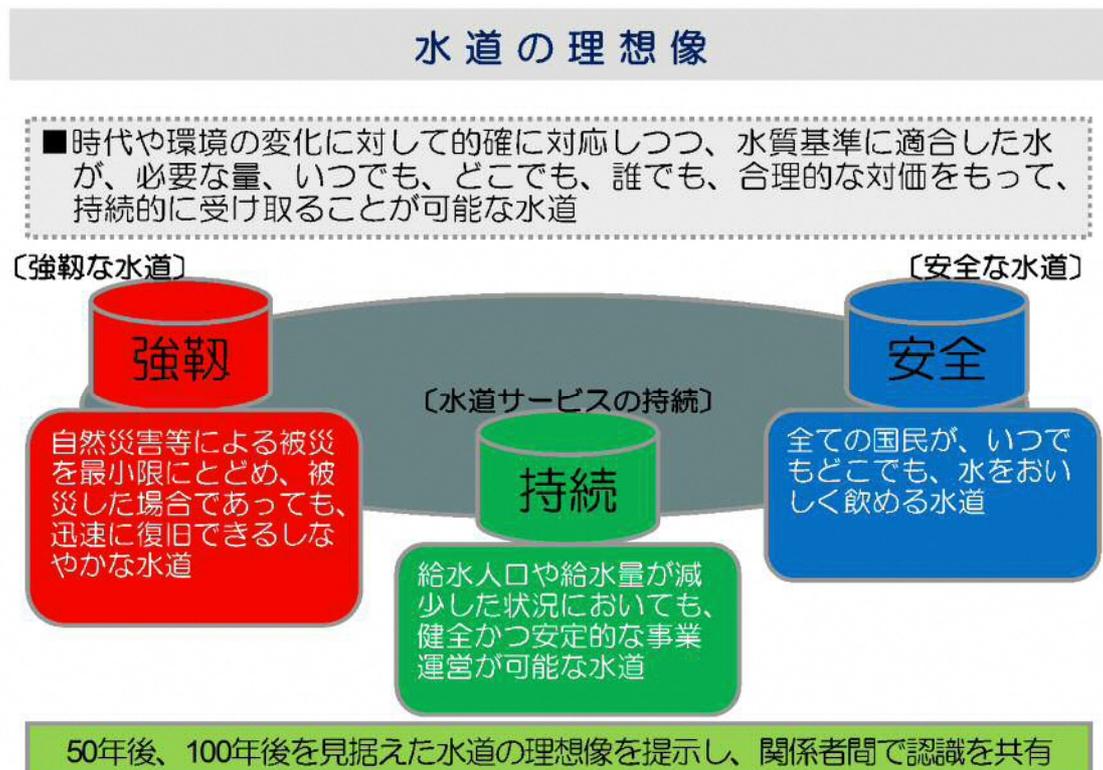
1 策定趣旨

本市の水道事業をとりまく環境は、少子高齢化の進展や人口減少による水道利用者の減少に加え、節水型ライフスタイルの定着に伴う水道使用量の減少など、大きく変化しており、水道料金収入は減少傾向にあります。さらに、施設の更新・改良や大規模災害に強い施設の整備など多くの課題を抱えています。

こうした中、厚生労働省は平成25年(2013年)3月に「新水道ビジョン」を策定・公表しました。これは、上記に記述した環境の変化に対応し、50年後、100年後の将来を見据え、水道事業の理想像を「安全」「強靱」「持続」の観点から明示するとともに、その理想像を具体化するため、今後、取り組むべき事項や方策を示すものです。

本市の水道事業は、平成21年(2009年)に「氷見市水道ビジョン」を策定し、将来につながる事業運営をしてきましたが、策定から9年が経過し、事業環境の変化とともに新たな課題も生じています。

以上を踏まえ、水道事業の普遍的な基本理念や基本方針を継承しつつ、長期的な視野に立った取組みの方向性や今後中長期に進めていく具体的な取り組みを示す新たな『氷見市水道ビジョン』に改定するものです。



(出典：新水道ビジョン 平成25年(2013年)3月 厚生労働省健康局)

図 1.1.1 水道の理想像

2 位置付け

「氷見市水道ビジョン」は、「第8次氷見市総合計画」を上位計画とし、厚生労働省より公表された「新水道ビジョン」の趣旨を踏まえて、50年後、100年後の将来を見据えた上で、今後、当面の間に取り組むべき事業の方向性や施策目標を定めるものであり、需要者に対しても事業の安定性、持続性を示していくものとなります。また、総務省が2020年度までに策定を求めている「経営戦略」の留意事項通知及びガイドライン(平成28年(2016年)1月)に示した趣旨も踏まえています。

氷見市水道ビジョンの計画期間は、具体的な施策の取組み期間として13年を目標とし、従前の「氷見市水道ビジョン」から継続し、平成31年度(2019年度)～2031年度までとして作成します。また、各施策の実行にあたっては、定期的な進捗管理とフィードバックにより、内容の見直しを行います。

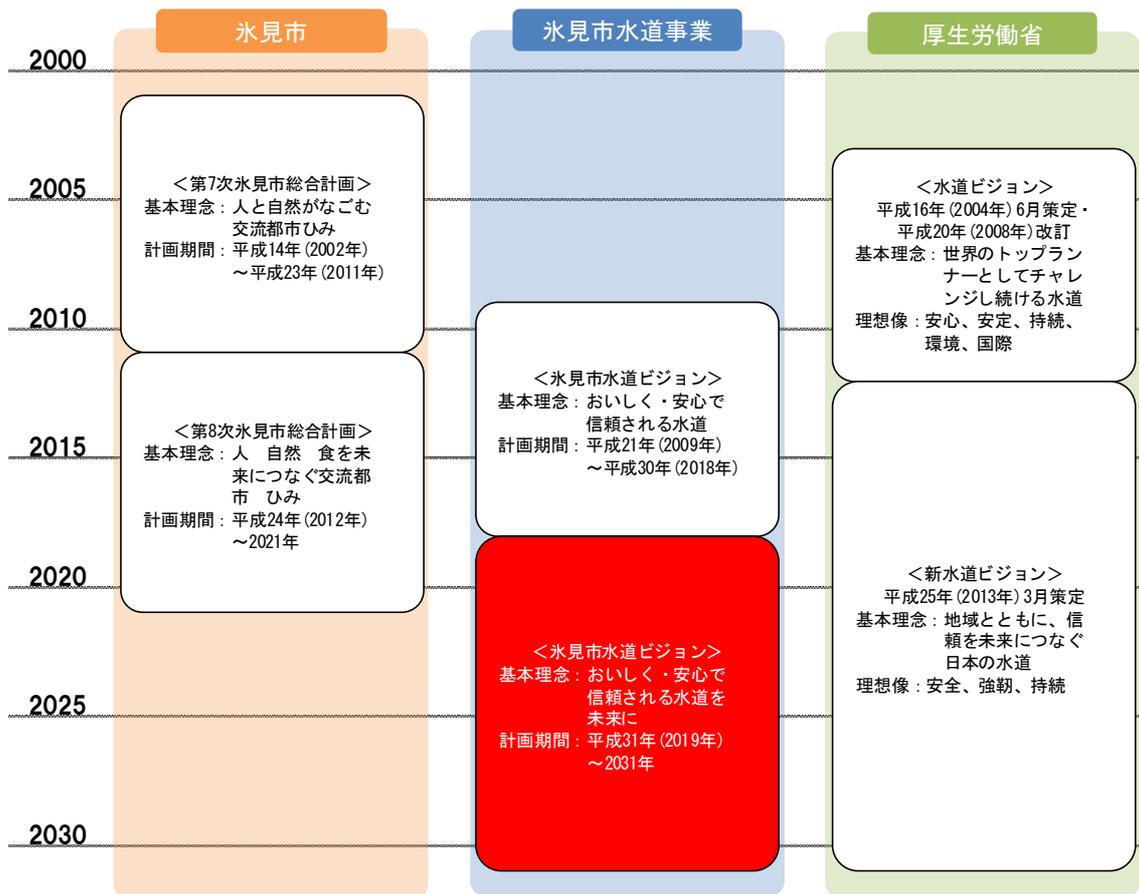


図 1.2.1 氷見市水道ビジョンの位置付け